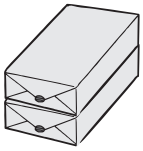
会　報
80号・81号
合　併　号

れきふーう

函館の歴史的風土を守る会会報
№80・81　H20.　6．1
発行所　函館の歴史的風土を守る会
事務局　函館市五稜郭町43－９
五稜郭タワー株式会社内
電話(0138)５１－４７８５
印刷所　㈲三和印刷　電話45－0845

開会式で挨拶する吉村副会長

チャリティパーティ・オークションの商品のご提供



ありがとうございました

第30回函館の町並みを美しくする新春チャリティパーティへの商品のご提供に御礼申し上げます。

函館山ロープウェイ株式会社、北海道コカコーラボトリング株式会社、中島孝内科循環器科医院、やま内科胃腸科医院、五稜郭タワー株式会社、有限会社日昇商事、ＰＯＰくらぶ、株式会社元町マリンハウス、平野建業株式会社、リーブズ・ハコダテ、函館東興株式会社、潮産業株式会社、函館トヨペット株式会社、小田島水産食品株式会社、函館トヨタ自動車株式会社、北海道製菓株式会社、株式会社オオタカ函館、函館三菱自動車販売株式会社、株式会社五島軒、函館三十三観音清掃ボランティア、歴風会会員

（順不同・敬称略）

平成19年度　歴風文化賞（第24回）

原風景　＝宣言文＝

「銀座通り」

函館市末広町

大火の多かった函館、延焼をくい止める防火線として誕生した銀座通り。

大正から昭和初期の銀座通りは３階建の洋風耐火建築物が建ち並び、沢山の人々が行き交い、東京の銀座街にもひけをとらぬ賑わいであった。

昭和９年の大火にも耐えた建築物、その後すぐに昔のままの姿で建て直された建物、街路樹の柳が現在でも当時の面影を残している。

通りを抜ける海風にゆれる柳の葉、洋風の耐火建築物が建ち並ぶ銀座通りは人々の思い出と共に函館の原風景であることをここに宣言する。

団体賞

大野文化財保護研究会

北斗市大野本町68
会長　木下寿実夫（きのしたすみお）　様

大野町（現北斗市）にある文化財を後世に伝承し、郷土文化の向上を目的に1972年に発足、以来「ぶんぼけん」の名で親しまれている。（会員70名）

大野地区を基盤に文化財や学術的価値の高い史跡、史料の調査・研究・保護のほか、資料の収集や保存に力を入れている。また、各種の講演会、見学会等も開催し、1982年から続けている会報はこの２月で168号になる。幅広い世代に向けて活動としては「おおの郷土史かるた」や箱館戦争をテーマにした「紙芝居」の制作等を行い、子どもたちが郷土への関心を高める努力もしている。

これらの地域に根ざした調査研究、多彩な活動は郷土文化の向上に大きく貢献している。

函館山三十三観音清掃ボランティア

函館市松川町30－3－305
代表　山下寿津子（やましたすつこ）　様

1990年代から函館山ボランティアガイドの仲間と共に、三十三観音像の清掃活動を続けていた山下さんが市民に呼びかけ、2002年に発足以来、月１回の活動を続けている。（会員23名）

「信仰には関係なく、昔からあるものをきれいにしたい」という思いで、供物の処理、賽銭の活用（観音像の補修費用）、草刈りの整備等を継続的に行っている。冬季の活動では観音像の除雪を行い、コース図が見えにくくなった案内板は新しく作ったものに変える等、巡礼する人々が観音像を見落とさないよう気配りをしている。おかげで観音像は年々きれいになっている。

保存建築物

函館どつくレンガ倉庫

函館市弁天町20－３　函館どつく株式会社
代表取締役社長　　村井　英治　様

この建物は大正初期以前にレンガ造平屋建の倉庫として建築された。

道路に沿って建てられている倉庫は100m以上の全長があり、函館では最大級のレンガ造の倉庫である。倉庫の内部はレンガ造の内壁で仕切られており、現在でも船舶関係の部品、機械が収納され十分に活用されている。レンガの積み方も外壁に見られる長手積み、内壁のイギリス積み、フランス積み等様々である。柱、梁、小屋組には太い木材が使われ、大きな屋根をしっかりと支えている。

このレンガ倉庫は創建当時の姿で大切にしっかりと保存されており、明治末期から大正初期における函館の倉庫の歴史を知る上で貴重な建築物である。

島津（しまづ）　京子（きょうこ）　邸

北斗市中央１・２・21
島津　京子　様

この建物は大正８年に木造２階建の和風住宅として建築された。２階部分の瓦葺きの大きな入母屋屋根がこの住宅の存在感を強調し、玄関左手の出格子窓や下、見板張りの外壁等、豪快でかっ繊細な造りである。

本州の宮大工によって建てられ、木材は九州の杉材、屋根瓦は福井から取り寄せられた。室配置等から農家住宅の形式を基本として建てられたと考えられるが、外観は当時日本の各都市で資産家が建てた御殿風の住宅と共通性がある。

建物、庭共しっかりと保存されており大正期の和風住宅の歴史を知る上で貴重な建築物である。

種田（たねだ）　英治（えいじ）　邸

北斗市中央１－２－16
種田　英治　様

この建物は明治30年以前に、木造２階建の和風住宅として建築された。

切妻妻入（きりづまつまいり）形式の伝統的な町屋であり、正面に向かって左側に土間の玄関がある。内部は創建時から若干改修されているが、玄関から続く板の間（以前は通り土間）に沿って両側に各室が配置されており、室の配置は創建時のままである。正面右手には高いレンガ造の塀が建てられており、火災時の延焼防止に備えていたと思われる。

函館付近には明治中期以前に建てられた現存する住宅は極めて少なく、明治時代の住宅の歴史を知る上で、貴重な建築物である。

歴風文化賞選定基準

1. 建造物自体の貴重性
2. 持ち主が長年保存への努力を続けている
3. 景観への寄与
4. 歴史性
5. 地域の町並みや社会全般への波及効果が大きい
6. 諸々の制約の中で創意工夫が顕著である

平成20年度　歴風文化賞（第25回）

原風景　＝宣言文＝

桜が丘通り　函館市松陰町、柏木町、人見町、乃木町

柏木町電停近くの電車通りから南に延びる「桜が丘通り」。

昭和初期に沿道の住民がソメイヨシノを植えたのが始まりで、その後も徐々に補植され現在の立派な桜並木となった。

春の満開時には美しい桜色のトンネルとなり、行き交う市民や観光客の目を楽しませている。

沿道の住民により清掃活動が行われ、大切に守られている「桜が丘通り」は函館の原風景でありここに宣言する。

保存建築物

宮本（みやもと）　寿一（じゅいち）　邸

函館市本町30－27
宮本　寿一　様

この建物は昭和初期以前に木造２階建専用住宅として建築された。

玄関右手には２階部分に洋風要素（上げ下げ窓、軒の持ち送り等）、１階部分に和風要素（出窓、下見板張り等）を取り入れた和洋折衷住宅が配置されている。

玄関左手は和風の平屋建住宅が配置されており、外観全体がほぼ創建時の姿で保存されている。室内の座敷、座敷に付属する欄間、床の間、付書院等も美しく原型をとどめている。

商業施設が建ち並ぶ本町地区にありながら、創建時の姿で大切にしっかりと保存されており、函館市東部地区における昭和初期以前の郊外住宅の歴史を知る上で貴重な建築物である。

保存建築物

大真協会（たいしんきょうかい）　函館支部（はこだてしぶ）

函館市杉並町19－26
大真協会　函館支部　様

この建物は昭和初期以前に木造平屋建専用住宅として建築された。

下見板張りの外壁上部には等間隔で幾何学模様の意匠が施され、屋根の棟飾り、木部を包む金物等細部にも気を配った外観となっている。

玄関には創建時から使用されていたと思われる段差を解消する石の式台があり、玄関左手は洋間、右手は座敷となっている。洋間の出窓外部は白色にペイントされ座敷の出窓は木部のままと室の性格に合わせた意匠となっている。室内の欄間、建具、付属の蔵等もほぼ創建当時のまま美しく保存されている。

外観、室内とも創建当時の姿で保存されており、函館市東部地区における昭和初期以前の郊外住宅の歴史を知る上で貴重な建築物である。

再生保存建築物　沼崎弥太郎（ぬまざきやたろう）　邸

函館市松陰町６－18　　沼崎　弥太郎　様

この建物は昭和９年に木造２階建専用住宅として建築された。

その後改築され、近年は創建時の姿を失っていた。再建に当たっては創建当時の姿を目標として建築が進められ平成18年に再建された。特に正面は創建時の意匠とほぼ同じ姿となっており、解体した木材を用いて外壁を構成する等細部にも気を配っている。

室内の建具、欄間、床の間等は創建時のままの姿で美しく保存されており、近代的な室内にうまく融合している。

創建当時の姿で美しく再建され、函館市東部地区における昭和初期の郊外住宅の歴史を知る上で貴重な建築物である。

特別賞　割烹旅館　若　松

函館市湯川町　１－２－27　　中澤　義一　様

この建物は昭和初期以前に木造２階建の旅館として建築された。

入母屋瓦葺の重厚な玄関、白漆喰（しろしっくい）と下見板張りの外壁、木製枠の窓等、創建時の姿を美しく忠実に伝えている。また、玄関前の東屋、灯籠等細部にも気を配り、昭和前期の温泉宿の雰囲気を上品に醸し出している。

本館には昭和29年に昭和天皇、皇后両陛下が宿泊された部屋も美しく再現されている。

高層ホテルが林立する湯の川温泉にありながら、創建時の姿でしっかりと保存されており、函館市における昭和初期以前の宿泊施設の歴史を伝える上で貴重な建築物である。

函館市 山本真也氏（都市建設部長）へ文化財保全基金として渡す吉村副会長

受賞者代表あいさつ（第29回）

大野文化財保護研究会会長　木　下　寿実夫　様

僭越ですが受賞者の皆さんを代表して謝辞を申し上げます。

過日吉報を受け、今日第24回の歴風文化賞授賞式に参列し、また長年積み上げた重みのある賞を頂き誠に有難うございます。

今回、三つの建築物、地域活動の二つの団体、そして原風景が選ばれ、関係者、会員一同喜びをかみしめております。この機会に大いにアピールしたいと思っています。

函館の歴史的風土を守る会は、活動の視点を北海道の玄関であり文化の薫り高い函館のみならず近郊へも目を向けられ、29年間の町並み保存、郷土文化の伝承等の諸活動は、地域の活性化につながり、私達にとって誇らしいものであり、勇気付けるものです。

大野文化財保護研究会はぶんぼけんの愛称で呼ばれ35年経ちました。この間歴風会には何かとお世話になっております。落合会長さんからは色々と文化財保護についてご教示を受けております。1993年、函館市内の見学会では工藤事務局長さんからご助言を賜り、1999年、文化講演会では浜島会長さんから貴重な講演などあって感謝に耐えません。

今まで受賞された保存建築物の一部の現状を紹介しますと、平成９年の上磯地区熊谷邸は、昨年文化庁の登録文化財になり早速私達の会は見学しました。同11年の大野地区安藤邸は、再生活用を図りつつあり、藍染めの館を目指しています。建築物や原風景などは見学や町並みウォーキングに活用し、楽しみたいと思っています。

歴風会が一層地域の隅々まで調査・発掘し光を当ててくださる事を期待しております。私達も及ばずながら歴風会の今後の活動にエールを送ります。

受賞者一同、今回の受賞を糧に建築物の保存に努め、地域に奉仕する団体として今後も努力する所存です。

最後に、函館の歴史的風土を守る会、そして関係者、今日参加者の皆さんにお礼申し上げ、簡単措辞ですが受賞者を代表しての謝辞といたします。有難うございました。

受賞者代表あいさつ（第30回）

㈱エスイーシー社長　沼　崎　弥太郎　様

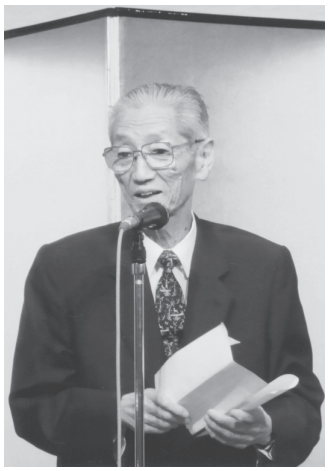
本日は、「歴風文化賞」の表彰にあたり、受賞いたしました保存建築物二点、再生保存建築物一点、特別賞一点、さらに原風景一点の、五つの受賞者一同になり代わりまして、御礼のご挨拶を申し上げます。

函館は、安政６年（149年前）アメリカをはじめとする外国との修好通商条約により、横浜、長崎と共に日本最初の貿易港として開港し、和洋折衷の建築物など、当時の面影を残す建築物が随所に保存、現在も活用されております。

このことは、函館の歴史を垣間見ることの一つでもあり、又文化育成の重要な要素の一つではないでしょうか。

日本はもとより世界各地を訪問し、このような生活に密着した文化遺産に接する時、人類の発展の歴史と人の命の重みを感ぜずにはおれなくなります。当地函館には、このような沢山の歴史的建造物があり、世界三大夜景の一つ「函館山からの夜景」と共に函館観光の大きな目玉となっております。

私事になりますが、現在勤務しております株式会社エスイーシーは、観光スポットの真っ只中・末広町に位置し現在四つの社屋を有し、その建物全てが西部地区の面影に配慮した建物としております。その中で電算センタービルは、昭和63年、当会より再生保存建築物（旧113銀行）としての表彰を受けております。今回の受賞を含め当会より二回の表彰を受けたことは大変光栄に存じます。又同ビルは平成元年には函館市より景観形成指定建築物に指定され、夜間はライトアップもされております。平成15年完成のシステムビルは、函館市都市景観賞を受賞しております。



今回の「歴風文化賞」受賞を期に、受賞した建物は今後大切に活用することは勿論ですが、函館の開港以来の先人に思いをはせ、風光明媚な函館の街、更には、函館国際水産海洋都市構想等新しい函館の街作り・発展を夢みて、挨拶に代えさせていただきます。本日は誠に有難うございました。

実行委員長あいさつ（第29回）

実行委員長　山　　朝　江
副実行委員長　齊　藤　裕　志

第29回函館の町並みを美しくする、新春チャリティパーティ実行委員長を務めさせて頂きます山でございます。一言ご挨拶をさせて頂きます。

これまで歴風会を支えて来られました係の皆様と会場にお集まりの皆様とでこの会が盛会でありますように盛り上げて参りたいと存じます。

私の役目はもう一つあります。

日独協会では「日本におけるドイツ年」に函館オリジナルの冊子「ハーバー記念碑が語るのも』を発行致

しました。そのご紹介です。膨大な量の資料をコンパクトに纏められており、この事件を風化させてはならないという冊子編集委員長の福田俊生様はじめ編集委員の思いの詰まった冊子です。

ドイツ領事ハーバー遭難事件について若い方はご存じないと思いますので掻摘んでお話します。

光りの宝石箱のような街、ハリストス正教会の鐘の音が今日も静かに響く異国情緒溢れた港町函館、此処にもかつて大事件がありました。

ご存じのように明治１～２年五稜郭戦争がありました。古い体制終焉の地函館は新しい明治政府の幕開けの地でもありました。

明治４年11月、１年７ヶ月に渡り岩倉具視１行留学生まで入れると107名がドイツを視察し、明治政府のモデルとしました。それは政治、司法、経済、教育、医学、薬学、文化などにわたりました。ドイツのビスマルクも共通性を見出し日本と親交をふかめようとしていました。

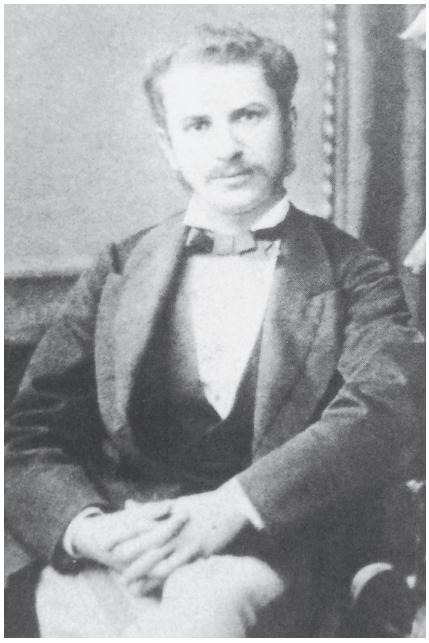
そうした時代背景の中、明治７年８月11日ドイツ帝国函館領事ハーバーが排外思想を持つ旧藩士に惨殺されました。

創設期の明治政府とドイツを揺るがし兼ねなかったハーバー領事遭難事件です。この事件解決を担った人々には函館や国家の重鎮官史がかかわっています。

その時６才だった甥のＦハーバー博士が50年後、函館に墓参に訪れています。

その後五島軒で歓迎会が盛大に開かれました。夜には函館公会堂で「理学と人生」という講演会がありました。理科離れが言われています昨今世界の科学界をリードしていた碩学ハーバー博士が来函している事実を知り、読み進むうちにＦハーバーの素晴らしい人柄に引き込まれました。これは孫に伝えなければと思い書いてみました。大きくなり理科や化学の教科書に載っている「ハーバー・ボッシュ法」「空中窒素固定法」の発見によりノーベル賞を受賞した科学者のＦハーバー博士であることを知った時、遠くの人でなく身近に感じることでしょう。

しかし時代が第１次世界大戦中だったので、化学が戦争に使われてしまいましたが、平和に使われて世界的な飢餓を救い貢献したことなど。時代の波に翻弄された叔父と甥の話は１例ですが、ドラマチックな歴史が展開する舞台、和洋折衷の建物や新旧織り交ぜた美しい町並み、それを守っている歴風会のお陰であることも伝えて行きたいと思います。簡単ではございますが歴風会のさらなる発展を祈ってご挨拶とさせて頂きます。



ドイツ代弁領事
ルートヴィッヒ・ハーバー氏の肖像

実行委員長あいさつ（第30回）

実行委員長　石　井　直　樹

函館の街並みを美しくする、新春チャリティパーティーに、このように大勢のかたにご出席をいただきましてありがとうございます。

ご承知のとおり、1859年、わが国で最初に海外に門戸を開いた都市でございまして、今なお異国情緒の漂う街並みが色濃く残っているところでございます。

これも偏に、発足以来30年の歴史を刻んできた、歴史的風土を守る会の皆様のご活躍、ご努力の賜物でございます。

景観の考え方といいますか、定義といいますか、難しいものがありますが、私も前の職場で、ＪＲ函館駅舎の改築を伴う区画整理事業に携わったことがあり、駅舎のデザイン、機能などがどうあるべきかなどについて、有識者の方々のご意見を聞いたことがあります。その時は、歴史を重んじた、レトロ調の駅舎にすべき、ですとか、または将来的な位置づけを考えた近代的なものにすべき、など、様々なご意見がありました。

結論としては、あのような連絡船の煙突を彷彿させる“ロトンダ”イタリア語で“塔”ということですが、中央にあって、そのロトンダからは、夜になると光がこぼれ落ちる、いわゆる“光の街　はこだて”を表す、前の駅舎とは異なったバリアフリーの快適な駅舎として生まれ変わりました。

この考え方を是とするか否とするかは、30年以上先の後世の市民の方の想いといいますか、その時の街並みと、どのようにマッチしているか、判断を委ねましょうということでした。

このように、景観とか、街づくりは、その時の社会情勢とか、経済情勢にも大きく影響される部分があると思います。

当会が発足した1978年は、市電の五稜郭駅と、ガス会社の間の市電が廃止になった年でございます。30年経過した街並みの変化は、いかがでしょうか。人それぞれ受取り方が異なるものと思います。

いずれにしても、交際観光都市函館のまちづくりには、これまでの歴風会の皆様の、様々な努力が実を結んできていることは確かでございます。

本日はこの30年間、色々な思いが脳裏を去来していると思います。そういう意味では、今宵のこの時間が、互いに振り返り、語り合う機会になればと実行委員会として願っております。

ご挨拶

副実行委員長　畑　中　佳　子

女性ヴォーカルグループ「アンサンブル・モジェ」の代表を務めている畑中佳子と申します。このたび、このような立派な会で演奏させて頂けたこと、そして、副実行委員長という大役を仰せつかり、このように挨拶を申し上げるなど、本当に恐縮しております。

私は函館で生まれ、高校卒業まで函館におりました。

大学進学時に函館を離れ、東京で生活をしていた４年間にいろいろな出身地の方々との出会いがありました。私が函館から来たことを告げると、誰もが驚き、誰からも羨ましがられ、その予想外の反応には本当に驚き、同時に密かな優越感を感じていました。

函館がこれほど各地から注目され、憧れの街であることを知り、函館を離れて改めてその魅力を実感致し、ますます函館が好きになり、函館を誇りに思う気持ちが強くなりました。

このことは、卒業と同時に函館に戻り、ここを活動の拠点とした理由の１つでもあります。

そんな美しい函館の街並みを大事にし、保存しようという歴風会のみなさまの活動をこのように身近に知ることができ、そして、チャリティパーティーにご出席して下さり、その活動を支えて下さった方々のお力添え、本当にすばらしいと感動致しました。

ヴォーカルグループの“Morze”と言う名前は、ポーランド語で“海”という意味です。函館以外で活動することも考え、函館をイメージしやすい言葉の中から選んだ名前です。これからも各地で演奏活動をしながら、この“Morze”という名前を通して函館のＰＲに努めて参ります。

最後になりましたが、歴風会のますますのご発展を願い、ご挨拶とさせて頂きます。

お礼にかえて

歴風会副会長　吉　村　富士夫

第30回「函館の町並みを美しくする新春チャリティーパーティー」と第25回「歴風文化賞」贈呈式開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

本来ですと本会の落合会長が皆様にご挨拶申し上げる処でございますが、体調を崩され欠席されましたので、代わってご挨拶を申し上げます。

実行委員長に石井直樹様、副実行委員長に畑中佳子様をお迎え致しました本日の表彰式に、ご多忙中のところ多数の皆様のご臨席をいただき、主催者を代表し衷心より感謝申し上げます。またオークションに協賛頂きました皆様、日頃歴風会の活動をご支援いただき厚くお礼申し上げます。

昭和53（1978）年４月、168名の会員で創立致しました当会も、30周年を迎えました。この30年間、100件余の表彰、25団体と５個人への表彰、４件の特別賞を顕彰して参りました。継続しております函館市への町並み基金の寄付も500万円を超えました。

反面、高齢化現象に直面して、会員数も減少しております。若いエネルギーの注入が急務であり、函館市西部地区から都市合併に対応した、渡島圏へと視野を広げた活動も、不可欠となっております。

先人達が灯した「函館の町並み保存」運動は、全国の先駆け（魁）として広く注目されております。歴史と伝統を私達は厳しい現状の中で受け継がなければなりません。

特に先人達が大切に育んできたもの・他都市の保存運動との違いは、路地や長屋があって、路面電車が走る町、静かなたたずまいの中で醸し出された特有の人情、生活そのものを大切にしていることです。

私達はこの伝統こそ函館の文化として「子孫」に語り継ぐ貴重な遺産であると考えます。

平成17年より、函館ケーブルテレビと本会協賛で「歴史風土、残したい函館」と言う番組で、歴史ある建造物や懐かしい函館の風景に毎年贈っております、歴風文化賞の受賞された建物を中心にご紹介しております。30周年を迎えるにあたり、この「歴史的風土、残したい函館」の番組のＤＶＤ制作と、30周年記念誌「はこだての町なみ」第２号の、発行を計画しております。

今後一層のご支援を、心よりお願い申し上げ、大変簡単措辞でございますが、ご挨拶とさせて頂きます。本日はどうも有り難うございました。

函館新聞　Ｈ20. 4. 29

歴風会

30周年記念誌の刊行準備

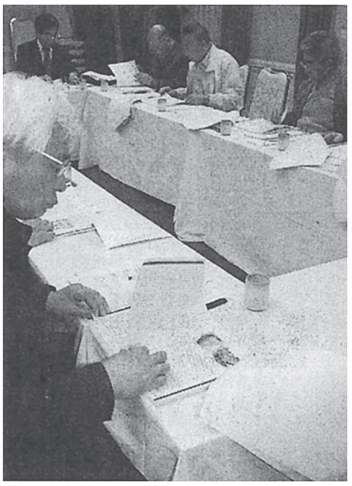
縄文―近現代盛り込む

創設30周年を迎えた函館の歴史的風土を守る会（歴風会、落合治彦会長）は、記念誌「函館の歴史と風土」の刊行準備を進めている。有識者らが執筆した函館の縄文時代から近現代までの歴史、同会の歩みなどを盛り込み、６月下旬の完成を目指している。

このほど、函館パークホテルで編集会議を開き、会員らが出来上ったばかりの原稿のチェック作業を行った。

同会は函館らしい街並みや建物などを、市民の手で後世に託す目的で１９７８年４月に発足。歴史的建造物や団体を表彰する歴風文化賞を83年度から継続している。30周年記念誌は佐々木馨副会長（道教育大函館校教授）を編集委員長に、昨年秋から準備を進めてきた。

同会が10周年の時に刊行した「函館のまちなみ」のイメージをベースに、合併した旧４町村地域や縄文時代の文化、女性史、文学史など幅広い視点から函館を紹介する内容となる。校正のため刷り上がった原稿は１１０ページで、最終的には１５０ページのボリュームになる見込み。校正作業では、掲載する写真やタイトルのバランスなどについて会員らが意見を交わした。



できあがった原稿について意見を交わす会員ら。右端が落合会長

落合会長は「函館の歴史や街並みは、そこに人が生活しているから注目される。民間団体として30年活動をしてきたが、この伝統を残すためこれからも活動を続けていきたい」と話す。また、佐々木副会長は「函館全体の理解につながるような市民に親しまれる記念誌としたい。歴史的建物の老朽化など転機も迎えているが、函館の文化について考えるきっかけとなる１冊になれば」と話している。

記念誌は市内の一般書店でも販売を予定している。

（今井正一）

ふるさと写真展　開催

第４回

《入賞者氏名》（敬称略）

▶金賞　木村　朱（東小２年）
▶銀賞　水島　裕美（あさひ小５年）　石崎　東（七重小４年）　枡本　優夏（旭岡小３年）
▶銅賞　木村　朱（東小２年）　枡本　優夏（旭岡小３年）　野中　史菜（亀田小５年）　及川　一真（亀田小５年）
福士穂野花（附属中２年）　枡本　夏穂（旭岡中２年）
▶佳作　田村みずき（昭和小５年）　山上　桃子（あさひ小６年）　阿部　公亮（亀田小５年）　山田千葉美（亀田小５年）
宮内　裕也（亀田小５年）　河上　桃子（亀田小５年）　西谷　涼（亀田小５年）　永澤　瑞貴（本通小６年）
▶歴風会長賞　東　実杜樹（西中１年）
▶交通局長賞　石崎　東（七重小４年）

第５回

《入賞者氏名》（敬称略）

▶金賞　枡本　優夏（旭岡小４年）
▶銀賞　赤倉　大聖（千代ヶ岱小４年）　木村　朱（東小３年）　佐々木祐太（椴法華小６年）　佐々木崇志（中島小４年）
▶銅賞　枡本　優夏（旭岡小４年）　野中　史菜（亀田小６年）　笹森　宥穂（中央小４年）　山中　綾寧（港小３年）
戸山　紗奈（港小３年）　石崎　東（七重小５年）　東　実杜樹（西中２年）
▶佳作　水島　裕美（あさひ小６年）　水島　久美（あさひ小１年）　岩根　遥香（亀田小６年）　宮内　裕也（亀田小６年）
河上　桃子（亀田小６年）　西谷　涼（亀田小６年）　古澤　丈（亀田小６年）　笹森　奎穂（中央小４年）
山口　泰蔵（駒場小５年）　岩崎　優也（金堀小３年）　川合　称花（昭和小６年）　水澤　健太（高盛小１年）
高山　沙稀（神山小６年）　石崎　東（七重小５年）　安田穂乃香（遺愛中　年）　大淵　優香（桐花中２年）
石幡　智春（函館ラサール中１年）
▶歴風会長賞　東　実杜樹（西中２年）
▶交通局長賞　岩間　修平（中央小５年）

函館の歴史的風土を守る会　歴史風土残したい函館　ＮＣＶ担当（岩田）

No.	建　　物	年　代	担　当
1	大正湯	昭和３年	清　野
2	長崎宏邸	昭和３年	対　馬
3	函館海産商同業組合事務所	大正９年	吉　村
4	茶房　ひし伊	明治38年	原
5	大手町ハウス	大正７年	石　井
6	高田屋嘉兵衛資料館	明治36年	村　田
7	函館マリンハウス	昭和９年	若　山
8	熊谷邸（北斗市）	明治元年	落　合
9	大黒湯（大町）	大正12年	新　城
10	梅津商店（十字街）	昭和９年	対　馬
11	八戸邸（湯川町）	昭和２年	我　満・後　藤
12	中田米穀店（万代町）	明治38年	佐々木・根　本
13	近江邸（赤川）	明治17年	吉　村
14	紫ぜん（豊川町）	明治末期	後　藤
15	函館工藝社（元八花倶楽部）	昭和２年	我　満
16	北海道教育大学函館校北方教育資料館	大正３年	佐々木
17	ミートハウス（旧西浜旅館）	明治40年	清　野
18	花かるた（豊川町）	昭和９年	石　井
19	松原邸（大町）	明治34年	吉　田・石　黒
20	カリフォルニアベイビー（末広町）	大正10年	我　満
21	小林邸（元町）	大正11年	対　馬
22	蕎麦蔵（弥生町）	明治27年	落　合
23	永全寺	昭和10年	原
24	井上米穀店（宝来町）		対　馬
25	藤田吉廣邸（七飯町）	昭和３年	吉　田・石　黒
26	LEAVES・HAKODATE（大手町）	明治45年	我　満
27	北海道高齢者協同組合道南地域　「茜」	昭和初期	
28	会席茶屋（旧うつ木）	大正14年	

今後予定

会席茶屋うつ木

菊谷邸

能登邸

北海道高齢者協同組合道何地域センター　「茜」

池田邸

開港五都市景観まちづくり会議 函館大会　10月10日に決まる！

平成19年11月９～11日、新潟市に於いて「開港五都市景観まちづくり会議」が開催、落合・吉村両会員と市より３名参加した。

「開港五都市景観会議」は、安政元年（1854）ペリー来航により結ばれた日米和親条約に基づき、下田･箱館の２港が開かれ、更に同五年（1858）日米修好通商条約が締結され、箱館・神奈川〈横浜〉・長崎・新潟・兵庫〈神戸〉の五港が開港されたことを機縁として、五都市の市民団体が一堂に会し、市民主体の「まちづくり」について意見交換し、交流を深めることを目的として、毎年回り番で開催されて来た。

「函館大会」は平成８年、平成14年、そして今年と３回目の開催である。

「函館大会」の取組みは当初より歴風会が深くかかわり、本年も実行委員長を仰せつかった。函館市都市デザイン課のバックアップで昨年11月26日には実行委員会を立ち上げ、来函される他都市の皆様に、十分函館を楽しんでいただきたいと目下準備をすすめて居ります。

皆様の積極的な参加を期待しています。

大会旗　会場の５都市会議のシンボル大会

大会旗の引き継ぎ

復元された旧税関の建物

市の中心街

市内見学風景

大会旗を肩に函館大会への招聘

進む 西・弥生小学校の統合と改築！

函館新聞 H20.3.19

西・弥生統合校舎

弥生小建て替え視野に

市教委 安全性確保から

児童数減少に伴う函館弥生小学校と西小学校の統合で、統合校舎を弥生小とする方針を示している市教委は、17日の市議会予算特別委員会（吉田崇仁委員長）で、校舎解体による建て替えを視野に入れている考えを示した。「弥生小の耐震診断やコンクリート強度を調べた結果、有効な耐震補強は難しく、建築物としての安全性の確保が難しい」と述べた。

能登谷公氏（市民クラブ）の質問に答えた。現在の弥生小校舎は1938（昭和13）年に建てられ、築後70年を経過している。鉄筋コンクリート造り地上3階、地下1階で、景観形成指定建築物となっている。

市教委施設課によると、統合校舎とする場合、安全性に問題がないかを調査した結果、鉄筋コンクリート強度も国土交通省の耐震診断基準より相当低いことが判明した。補強工事は難しいという。

は基準値の半分程度で、にさびが発生し、耐震性

2008年度に基本設計を実施し、09年度から工事を始め、12年4月の新校舎使用を目指す。09年度に統合し、西小を仮校舎とする予定。12年度の新校舎での児童は旧弥生小181人、旧西小65人で計246人の見込み。各学年2クラスの12学級を予定している。

両小の統合は05年度に学校教育審議会が市教委に答申し、両小PTAも同意済み。両小PTAや地元町会、同窓会などからは、バリアフリー対応の新築校舎を望む声も。西小のイメ築整備かという。

函館新聞 H20.6.10

校名5候補を答申

西、弥生小統合 来年4月から使用

児童減少に伴う函館西小学校（村上一典校長）と函館弥生小学校（佐野太三校長）の統合で、統合校の校名を検討していた両校関係者で構成する校名検討委員会（森地誠一委員長、委員16人）は、函館市教委の多賀谷智教育長に、5候補を答申した。今後市教委定例会で校名を議決し、早ければ9月議会に市学校設置条例の一部改正を提案する。新校名は統合する2009年4月から使用する。

候補は3つの視点から提示。これまで歩んできた学校の歴史や伝統の視点からは1882（明治15）年に開校した「弥生小学校」、統合に対する思いや願いからは両校の名称をつなげた「西部弥生小学校」「弥生西小学校」、学校の位置や地名・地域からは西部地区の学校であることから「西部小学校」を示した。

全校児童や保護者、町会を通じた地域住民へのアンケートで意見を募り、5月下旬に開催した同委員会で方向性を決め3日に答申した。市教委は「地域のさまざまな思いが込められており、慎重に検討する」としている。

同校の新校舎は旧弥生小跡地に置く。本年度は新校舎の基本設計をし、統合する09年度は旧西小校舎に引っ越したうえで新校舎の着工、12年度から新校舎使用を目指している。

（小泉まや）

弥生小学校校舎の耐震診断等の結果

校舎の耐震診断とコンクリートの圧縮強度試験等を実施した結果は下記のとおりであり，有効な耐震補強の実施は難しいものと判断される。

【結果】

・耐震診断により，構造体の耐震性が極めて低いと判定された。
・コンクリート圧縮強度が低く中性化も進み，鉄筋には錆も発生している。
・地質調査による地盤の支持力度が低く，現状の基礎では過小である。

統合校舎の整備方針

統合校舎については，施設の耐震診断などの結果や両校のＰＴＡなどからの要望などを踏まえ，学校としての安全性の確保や学習環境の改善を図るとともに，景観形成指定建築物等の指定継続を目指す必要があることから，弥生小学校の有する歴史性や独特の意匠，さらには地域の町並みに配慮しながら，建物の外観を構成する主な立面を忠実に復元し，改築する方向で検討することとする。

なお，整備に当たっては，今後，市民意見等もふまえながら決定することとする。

これまでの経過

平成４年度
　学校教育審議会へ「西部地域における小学校の適正配置について」諮問
平成５年度
　学校教育審議会から「西部地域における小学校の適正配置について」答申
平成１６年度
　学校教育審議会へ「西小学校・弥生小学校の統合について」諮問
平成１７年度
　学校教育審議会から「西小学校・弥生小学校の統合について」答申
平成１８年度
　西小学校と弥生小学校のＰＴＡが統合について同意
　西小学校と弥生小学校の統合決定，統合校の位置は現弥生小学校

ＰＴＡおよび地域等の要望

平成18年10月2日に西小学校および弥生小学校両校のＰＴＡから両校の学校統合について同意書が提出され，また，統合にあたっては校舎を新築し，良好な学習環境を確保することなどについて要望書が提出された。

平成19年8月9日には，関係町会の7町会から，両校の統合と改築の早期の実現に対して陳情書が提出されたほか，弥生小学校同窓会からも現在の校舎のイメージを残しながら校舎を新築し学習環境を整備するよう要望書が提出されている。

今後の整備スケジュール

平成20年度	統合校整備基本設計
平成21年4月1日	西小学校，弥生小学校統合（仮校舎西小学校）
平成21年度	統合校整備実施設計，弥生小学校解体工事
平成22年度	統合校整備工事（校舎）
平成23年度	統合校整備工事（校舎，屋体）
平成24年4月1日	統合新校舎供用開始

弥生小学校

弥生小学校校舎は，昭和13年に完成したものであり，築後70年あまり経過していることから，建物や設備等の老朽化が著しい状況であり，最大40学級，2千人余りの児童数に対応した施設であることから，現状の児童数では過大な校舎規模となっている。

グラウンドは，校舎と体育館に囲まれており，極端に狭く使いづらいものとなっている。

また，同校は，当市が定める都市景観形成地域に位置し，平成元年に景観形成指定建築物等として指定されている。

所在地	函館市弥生町4番16号
敷地面積	11,709㎡
建築年	昭和12～13年
構造	鉄筋コンクリート造地下1階地上3階建
延べ床面積	7,946㎡　（校舎　6,823㎡　体育館　1,123㎡）
グラウンド面積	1,960㎡
学級数	8学級（普通6学級，特別支援2学級）
児童数	185人（H19.5.1）

西小学校

西小学校は，西中学校と一体の敷地にグラウンドを挟み設置されており，校舎は昭和46年に第1期工事が完成し，築後37年が経過していることから，建物はもとより，水道や暖房等の設備についても老朽化が進み，改修が必要な時期となっている。

グラウンドは，西中学校と共有となっていることから，時間調整などが必要となり，非常に使いづらいものとなっている。

所在地	函館市弥生町12番1号
敷地面積	8,432㎡
建築年	昭和46～47年（1期～3期）
構造	鉄筋コンクリート造3階建
延べ床面積	4,365㎡（校舎　3,581㎡　体育館　784㎡）
グラウンド面積	4,966㎡（西小学校保有面積　2,173㎡）
学級数	6学級
児童数	86人（H19.5.1）

※会員の御意見をお聞かせ下さい。

《市教委「西小学校・弥生小学校統合校舎の整備について」より抜すい》

会務日誌

H19. 11. 9～11
　開港五都市景観まちづくり会議　新潟大会
　　落合・吉村　他市役所より３名出席する
H19. 11. 26
　第１回開港五都市景観まちづくり会議　函館大会
　実行委員会
　　落合実行委員長
　　3／25、4／8、5／15　幹事会等開催
　　6／9～6／10　企業各社へ協賛依頼に訪問
H20. 2. 16～20
　第５回ふるさと写真コンクール
　　2／17　表彰式（函館駅２Ｆ「イカすホール」）
　　3／12～3／23　入賞作品を市電530号に展示する
H20. 2. 22
　第30回　函館の町並みを美しくする
　「新春チャリティーパーティー」
　〈第25回　歴風文化賞贈呈式〉（五島軒本店）
H20. 4. 4
　市教委・都市デザイン課　６人出席のもと
　「西・弥生小学校統合校舎の整備について」会長が
　　説明を受ける
H20. 4. 8
　第２回開港150周年記念事業実行委員会で歴風会が
　実行委員に推挙される（ホテル函館ロイヤル）
H20. 4. 15
　第１回「市長と市民のふれあい懇談会」に７団体で
　参加（サン・リフレ函館）
H20. 5. 31
　全国町なみ保存連盟総会（東京芸大）
H20. 6. 22
　平成20年度　歴風会総会（五島軒本店）
H20. 6. 2～27
　第14回函館市都市景観賞募集（都市デザイン課）

予告
☆H20. 10. 11～13
　第31回　全国町なみゼミ卯之町大会
　　〈愛媛県西予市卯之町〉
　第32回　全国町なみゼミ佐原大会（平成21年度）
　第33回　全国町なみゼミ盛岡大会（平成22年度）

沼崎様ありがとうございました

平成19年度、再生保存建築物として歴風文化賞を受賞された沼崎弥太郎様から、此度当会に建物の写真と賞状文を刷り込んだ「函館バス・市電共通乗車カード」が多量に寄贈されました。本紙を借りて厚く御礼申し上げます。

６月22日の総会で会員に配布します。

寄贈文献

「有松」（№56、№58）
　有松まちづくりの会（名古屋市）
「藍流」　有松まち普請の会
「私たちの50年」（全３冊）
　㈶あしたの日本を創る協会（東京都）
「町並みミニかわら版」（№37、№41）
　全国町並み保存連盟
『日本の「つつむ」文化を考える』
　地球環境と資源エネルギーを大切にする
　国民運動全国会議
「まち　むら」　№96
　㈶あしたの日本を創る協会（東京都）
「妻籠宿」（№82、№86）　㈶妻籠を愛する会（長野県）
　㈶民間都市開発推進機構　ホームページ開設
　http://www.mlit.go.jp/city/mint/index.htm
「函館の産業遺産」№11
　函館産業遺産研究会（平成18年８月発行）
「地域づくり交流連携フォーラムアクションプラン」
　渡島支庁地域振興部地域政策課
「ぶんぽけん」№170　大野文化財保護研究会
「第30回町並みゼミ伊勢大会」報告書

✻✻ 編　集　後　記 ✻✻

◇会報が会員間のコミュニケーションに如何に重要であるか、片時も忘れたことはない。しかし、結果的に80号は発行出来なかった。
◇開港五都市景観会議函館大会が今年10月10日開催される。その中枢を歴風会が担っている。
◇そして歴風会の30周年を迎える年でもある。佐々木馨副会長が中心となり、30周年記念誌の編集事業も進んでいるが、30周年を心から喜び共感出来る全国の仲間づくりまでは進んでいない。あらためて故人となられた田尻聡子氏の偉大さを知る想いである。
◇それもこれも「会報」が会運営を担う組織となる日を心待ちしています。
◇合併号の写真は上田邦孝・八木橋直弘氏他によりました。

（文責　落合治彦）